

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年6月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2874400498		
法人名	特定非営利活動法人 ダーナ		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホームくりあん		
所在地	兵庫県豊岡市大磯町6-24 (電話) 0796-22-0775		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年4月18日	評価結果確定日	平成21年8月3日

【情報提供票より】 (21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算8.75人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(90,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	4 名	女性	3 名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	0	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 78 歳	最低	59 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しらゆり診療所
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路より少し入った、昔懐かしい家が立ち並ぶ静かな環境の中にある。昔料亭として使われていた昔懐かしい部分を残しながら改装を行ったホーム内では、利用者が居心地良く自分の力を最大限に活かしながら生活できる空間となっている。人は生涯発達していくと職員の意識は一致しており、利用者個々が家庭的環境でその人らしく過ごせるように日々話し合いながら支援している。また、利用者が地域の方と関わりながら生活できるように地域の役員や住民の方へ働きかけを継続し、運営推進会議開催に向けての話合いやホームでの行事の案内、日常的な交流の確保に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	<p>昨年の評価を活かし非常・災害時マニュアルを作成している。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目: 第三者4)</p> <p>管理者が自己評価票を作成している。評価項目の内容は、職員へ提示し管理者が仕上げた内容を職員が閲覧できるように掲示した。日々のケアの中で評価項目の内容を管理者より話している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)</p> <p>地域の区長さんと運営推進会議実施に向けた話し合いの中で区の役員会の中での実施案が出ており、5月の開催に向け日程を調整中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)</p> <p>家族の何気ない言葉から訴え・意向を把握するようにしている。家族の面会時などは、職員より挨拶や話しかけを行い言いやすい雰囲気作りをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)</p> <p>ホームで行われるバーベキューなどの行事には地域に声をかけ出席してもらったり、近隣の方にプランターの花を頂いたりして交流が持っているが、老人会に所属までは至っていない。近隣の店などとのつながりも検討し現在対応している。</p>

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の見直しはおこなっていないが、地域住民として暮らしの継続ができるよう利用者個々のこれまでの生活環境や状況を把握・理解し支援することを心がけている。		現在、地域密着型サービスとしての「家庭的な環境と地域住民と交流の下で」を理解し取り組んでいる内容を理念に盛り込み現状にあった理念に作り変えることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に、向上心がないとケアの向上はないと考え日々ケアについて意見交換を行い理念への意識の共有を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行われるバーベキューなどの行事には地域に声をかけ出席してもらったり、近隣の方にプランターの花を頂いたりして交流が持っているが、老人会に所属までは至っていない。近隣の店などとのつながりも検討し現在対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者が自己評価票を作成している。評価項目の内容は、職員へ提示し管理者が仕上げた内容を職員が閲覧できるように掲示した。日々のケアの中で評価項目の内容を管理者より話している。昨年の評価を活かし非常・災害時マニュアルを作成している。</p>		<p>評価を日々のケアの振り返りの機会と捉え、全職員で自己評価に取り組みられることを期待する。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の区長さんと運営推進会議実施に向けた話し合いの中で区の役員会の中での実施案が出ており、5月の開催に向け日程を調整中である。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営促進会議での関わり、高年福祉課への折をみての関わりを持っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書などと一緒に生活状況や身体状況を書いて報告している。また、体調不良時や事故発生時には、随時の報告を家族の状況に合わせて報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の何気ない言葉から訴え・意向を把握するようにしている。家族の面会時などは、職員より挨拶や話しかけを行い言いやすい雰囲気作りをしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職による利用者への影響を考え、移動は最小限にしており、やむをえない異動があった場合は、利用者への観察を十分に行い、異動による利用者へのダメージやショックに対して適切な支援を行なうようにしている。主任を配置し職員の相談や悩みを聞く体制作りを行い、職員の離職を最小限にする取り組みを行っており、職員の離職も少ない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修へ参加する体制作りを行いたいと考えているが、利用者への日々のケアへの支障がないようにするため現在は、外部研修参加は出来ていない。内部研修は、介護予防で講師をしている職員が、講師となり毎月研修を実施している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡会で研修参加への呼びかけもあり、同業者との交流をもち質向上できるよう取り組んでいる。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族の状況に応じて見学や事前面談を行い入居・サービス利用開始に至るように取り組んでいる。体験利用も声をかけているが、現在まで体験利用の実績はない。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であると捉え、個々にあわせた言葉かけ、呼称を使い、お互いが協働しながら穏やかな生活を過ごしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の表情や視線・話す様子などから個々の思いや意向・希望を把握するようにしている。</p>		
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前の面談で十分なアセスメントを行い本人・家族の意向や希望を把握し、カンファレンスで職員の気づきや意見を取り入れ個別・具体的な計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者・家族の意向や希望の把握に努め、状態・状況に変化があれば計画の見直しを行っている。</p>		<p>安定しているような利用者の場合も、月1回程度は、ケアのアイデアを集めて、変化の兆しに予防的に対応していくための実情に即した計画の見直しが望ましい。</p>
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の自宅への一時帰宅、個別の買い物・地域行事への参加など家族・本人の状況や要望にあわせた柔軟な支援を行なっている。協力医療機関との相談体制も整っており安心してホームでの生活の継続ができるように取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医師や病院関係者との連携や協力体制の重要性を理解しており、普段から電話やメールのやり取りを柔軟に行い適切な受診ができるよう取り組んでいる。協力医療機関の受診だけでなく利用者・家族の希望する馴染みの医師への受診も可能である。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた事業所としての方針は、契約書に短文での明記になっているが、重度化や終末期を利用者・家族・医師・医療関係者と話し合いを持ちながら支援していく方針を持っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉になっていないか、職員は注意しながら支援を行なうようにしている。利用者が安心できる馴染みの呼称や言葉を使い、誇りや尊厳を守るための個別の対応を行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>8人の生活の流れが大まかに決まってきておりその人それぞれに安全安楽を考えた支援を職員は行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら旬の食材や利用者の好みや苦手なものを踏まえた献立を立てている。食材の買い物には、利用者と共にに行っていないが、個々の利用者の能力に合わせて調理や配膳・後片付けを職員と共にしている。職員と共に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後の入浴となっているが、利用者の生活リズムや希望・体調に合わせて入浴できるように支援している。同性介助にこだわっておらず、利用者の希望にあわせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活歴や習慣・希望・力量に応じて、個々の趣味や役割、楽しみごとを把握し支援するように心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り気候の良い時期に利用者の希望・身体状況に合わせた外出支援をしている。同法人で行われている陶芸教室への参加や買い物などを利用し戸外へ出かける機会を持てるよう工夫している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目が届きにくい場所にはセンサーが設置され利用者の安全性を確保しながら、鍵をかけないケアを実践している。夜間20時から玄関は施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回自主消防訓練を夜間想定で実施している。今後継続的な訓練を行っていくことを考えている。消防計画・防火管理者の登録は行っている。		事業所内の訓練だけでなく、今後は地域住民に協力を得ながら訓練を実施されることを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師より栄養摂取量や水分量の確保に関して指導を受けている。水分量は便の量、浮腫の関係などを見ながらペットボトルを利用し水分摂取量の把握を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔料亭として使われていた昔懐かしい部分を残しながら改装を行ったホーム内では、利用者が居心地良く自分の力を最大限に活かしながら生活できる共有空間となっている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より利用者個々の馴染みの使い慣れた物の持込を家族に依頼し、住み慣れた環境との違いに戸惑いや不安が少ないように配慮されている。馴染みのものや趣味のものを部屋に置き、その人らしく居心地のよい居室空間となっている。		

 は、重点項目。